



# あおぞら通信 No. 7

2007年10月20日発行改

発行人: あおぞら自然共育舎 早川広美

なるべく1・4・7・10月の20日に発行

## 目次

- ・ 共働舎とんぼガーデンに来た生きもの…… 1
- ・ 田んぼから～ネット掛けから稲刈りまで…… 1
- ・ 瀬上沢で「谷戸の学校」…… 2
- ・ どんぐり苗100本移植のその後…… 2
- ・ 昔の暮らしを体験する…… 3
- ・ 壁面緑化で夏を涼しく…… 3

- ・ 樹木葬と自然体験…… 3
- ・ 遅い秋…… 4
- ・ 秋の新茶…… 4
- ・ 我が家のお客様…… 4

♪ ページをめくるひととき・その3 『目で見える庭のロープワーク』…… 3

### ★共働舎とんぼガーデンに来た生きもの★6

月中旬の池の改修後、やって来た生きものの代表はトンボでした。左の写真は、オオシオカラトンボの雄で、夏の間中よく来て縄張りを張っていました。そのほかにも、真っ赤な色のショウジョウトンボも



来たようです。産卵も目撃されているので、池の中にはヤゴがいるかも…!? 移植した水辺の植物もよく根つき、順調に生育しています。

11月18日(日)には共働舎の秋祭りがあり、その時にとんぼガーデンの観察会を開く予定です。そこで、実際にどんな生きものがやって来たのか、池の中を中心に観察してみようと思います。どなたでも参加できますので、興味のある方はどうぞいらしてくださいね。

○共働舎: 横浜市営地下鉄立場駅より徒歩7分

### ★田んぼから～ネット掛けから稲刈りまで★

7月の草取りが終わると、田んぼ全体に大きなネットを掛け、スズメの食害から稲を守ります。お盆の頃、稲の花が咲き次第に米を実らせていくのですが、どうもこの最初の頃の米は中がミルクのように柔らかくておいしく(来年は私も食べてみよう)、スズメがそれをねらって大挙して



やってくるのです。左の写真は私が高校生とやっている田んぼの出穂(しゅっすい=穂が出ること)の様子ですが、少しバラツキがあり心配しました。

9月になると田んぼの水を抜きます。稲に危機感を持

たせ、実りの方にエネルギーを集中してほしいからです。そのあと台風が来て稲がだいぶ傾いてしまいましたが(写真上)、数日後にはほとんどが自力で立ち上がっていたのでビックリ!良かったあ〜とホッ。



そして10月の稲刈り。鎌を使ってザクツザクツと刈るのは何とも爽快です。高校生も、刈るのが一番楽しかったと言っていました。でも刈る作業は全体の仕事から見たら3分の1程度。それ以外のネットはずし、杭抜き、ハザ



ハザは両端に三脚を組み、竹竿を渡して作ります

(刈った稲をかける竿)作り、刈った稲を束ねて藁で結わく、ハザ掛け…などの作業の方がうんと多いのです。

実は私はこの「ハザ作り」に自信がなかったのですが一以前、台風で倒れてしまったトラウマがあるので一今回はほかに頼るスタッフもなく、ほかのハザを見たりやり方のコツを聞いたりしてイザ! みんなで協力し合いやってみると、思ったほど大変ではなくできたのでした! これで11月の脱穀まで無事に立っていれば、の話ですが、自信がつくといいな。あとはなるべく晴れの日が続いて、稲がよく乾きますように! と祈るばかりです。次は脱穀です。



稲刈り後の田んぼで早速アカネが産卵

## ★瀬上沢で「谷戸の学校」★

横浜市の市民グループ「瀬上の森・パートナーシップ (SMP)」からの依頼で自然観察会「谷戸の学校」の講師を担当しました(10月8日)。テーマは「秋の湿地の生きもの」です。雨にもかかわらず、おとなを中心に10人以上の方が参加されました。

谷戸というのは、小さな丘陵に囲まれた小さな谷を指す言葉で、横浜市には多い特徴的な地形です。横浜以外でも「谷戸」「谷津」「谷地」の地名はよく見聞します。「〇〇やと」などの地名があなたの家の近くにも残っていませんか?かつてこの谷戸では田んぼが耕され、それを取り巻く池や水路、雑木林や畑、そして人家も含めて里山と呼ばれる場所が形成されていました。そこでは、いろいろな種類の動植物も一緒に暮らしていました。

SMPは瀬上沢の休耕田跡の湿地を中心に手入れをし、谷戸の自然の豊かさを守り育てようとしているグループで、その一環としてこの6月から8月にかけて湿地に3つの小さな池を作りました。

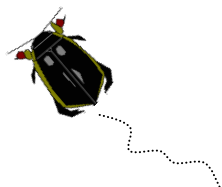


上が6月に作った池、下が7月に作った池です。この2つの池を対象に、そこに棲む生きものたちをたも網ですくって観察しました。作ったばかりの池にどうして生きものがあるのだろう?どこからどうやって来たのだろう?下の池にヤゴがいっぱいいて上の池にとても少ないのはなぜだろう?など参加者の方たちと一緒に考えながらの観察でした。

湿地に様々な生きものが共に暮らすために私たちはどうすればいいのか、楽しみながら気づきを深めてもらえたかな、と思います。

\* SMPのブログで観察会の様子が報告されています  
<http://ameblo.jp/segami-ps/entry-10050403697.html>

私はヒメゲンゴロウ。みんなの前で飛んだら歓声が上がったよ!



★どんぐり苗100本移植のその後★前号でもお伝えした「養護老人ホームでのどんぐり苗100本移植」のその後です。7月上旬に移植した苗が、その後の猛暑をどう乗り切ったか心配しながら手入れと確認に行きました(10月12日)。



クヌギの苗と実



シラカシの苗と実

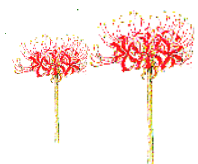
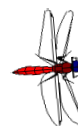
植えたもののうちクヌギが一番元気で一本数も多かったのですが、シラカシなどの常緑樹(秋になっても葉が落ちない木)は大きさもあまり変わらず、枯れているものも多くありました。上の写真で比べると、よくわかりますね。移植する前の種からの成長具合も、クヌギよりも常緑樹であるシラカシなどの成長の方が遅かったのもともと苗も小さかったのです。

クヌギは日当たりが好きで成長も早く、シラカシは日当たりよりは日陰が好きで成長も遅い、ということを実感しました。

雑木林を維持する過程で、こうした木々の特性を活かして人が木を切って薪に利用したり、下草を刈って堆肥にしたりするという営みがかつては続いていたのですね。

ちなみに人が何も手を入れないと、いずれはシラカシのような常緑樹が逆にクヌギなどの落葉樹に取って代わって勢力を拡大し、暗い森を形成するようになります。今でもいわゆる「鎮守の森」がそうした森をおもに維持しています。あなたの近所にもありませんか?

今回の手入れでは、回りの草を刈り、囲みロープや目印棒の付け替えなどを行いました。





**★昔の暮らしを体験する★**今年の夏も、小学4年生から6年生の子ども達とともに、茅葺き屋根の古民家に泊って昔の暮らしを体験しました(7月26・27日)。

昼間は草刈りや田んぼの草取りをし、食事は古民家のかまどで煮炊きをします。お米は田んぼでとれた餅米を使うので、蒸籠(せいろう)でおこわにし、畑で取れた野菜を中心に味噌汁を作ります。

初めての体験にも子ども達は好奇心旺盛に取り組みます。中でも、かまどの火の番は人気の仕事。そういえば私も子どもの頃、かつて団地にあった焼却炉でゴミを燃やすのが好きだったな～。人って火が燃えるのが好きなんではないでしょうか。

そして夕飯の片付けが終わったらもうへトへトですが、子ども達は真っ暗な中で「だるまさんがころんだ」などをわあわあやっているの、恐れ入ります。

翌日は藁で縄ないをしてその縄をお土産に持ち帰りました。縄以外にもそれぞれの心の中にたくさんのおみやげができたことでしょう。



**★壁面緑化で夏を涼しく★**今、夏を少しでも涼しく快適に過ごす工夫として「壁面緑化」が注目されつつあります。

これは建物の外壁に植物を這わせることで「緑のカーテン」を作って陽射しをさえぎり、植物からの蒸散作用によってさらに室内外の涼しさを増し、都会のヒートアイランド現象を緩和することを期待するものです。もちろん、それによって冷房の使用が抑制されればそれだけ温室効果ガスの発生も抑えられ、地球温暖化を抑制することにもつながるといわけです！

そんな折、いただきものの苦瓜が熟しすぎてはじけているのを発見。涼しくてオイシイ夏を夢見て、中にある種を来年の春、西側のプランターに蒔いてみようかと考え

ています。うまくいかな？

最近「打ち水」がイベントとともに復活してきていますが、次はこの壁面緑化が普



これが苦瓜(ゴーヤ)の種

及するかもしれませんね。その際にどんな植物を選ぶかは大事なポイントで、もともとその土地にある植物を脅かさないような種類を選びたいですね。普通の住宅なら凝った園芸植物ではなくても、ヘチマや朝顔で十分ではないでしょうか。小学生の頃を思い出してあなたもやってみては？そして、涼しいだけではなく、そこが生きものの棲み処にもなることでしょう。

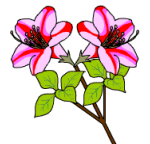


日本大学生物環境科学研究センターをこの夏見学し、藤による壁面緑化を見ました

**★樹木葬と自然体験★**「樹木葬」って、聞いたことがありますか。とても簡単に言ってしまうと、従来のお墓にある墓石の代わりに木を植える葬法のことで、同時にそれが、自然を守り育てることの一環にもつながっています。

このテーマを追いかけているライターのKさんから「里山保全型の樹木葬墓地で命の大切さを子どもに伝えるプログラム」の可能性について聞かれ、気づきを重視した自然とのふれあいや植樹などの作業を組み合わせた案を考えてみました。

いつかやってみたく、情報収集を続け、アイデアをあたためています。



### コーヒーとともにページをめくるひととき…★その3

『目で見える庭のロープワーク』右田順三編著、建築資料研究社、1979

私のコンプレックスの1つが「手が不器用」ということ。年をとるにつれて段々とマシになってきたが、苦手意識はなかなか消えない。特に「紐カンケイ」がヨワイ。しかし、6年前に農作業を始めてからはそんなことを言っていられなくなった。★まず藁で縄をなうのをマスターするのに多分人の倍はかかっている。そして「しばる・結わく・結ぶ」の出番は本当に多い。立ち入り禁止場所に杭を立ててロープを張る、薪を縄でしばってまとめる、刈った稲を藁でまとめて結わく、ハザ(1ページ参照)作りのために三脚を組む、などなど。この原稿を書いている今日も、雨に備えてハザに掛けたブルーシートが風で飛んでしまい—縄のしばり方が甘かったのだ—先輩諸氏に迷惑をかけてしまった。★一般のロープワークの本はこうした(農)作業での実用例に乏しいが、この本は造園向けなのでその点大いに役立っている。そんなわけで、この本を横に置いて家で時折、ラップの芯と縄で練習しているのである。

ふぁいと!



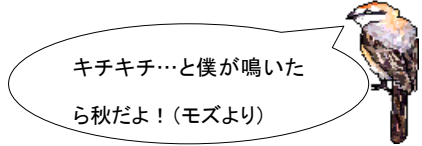
★遅い秋★今年の夏は暑かったですね！「暑さ寒さも彼岸まで」と言いますが、今年は彼岸を過ぎて暑い日がありました。その証拠に、10月20日、まだアブラゼミが鳴いているのを聞きました。下(草むら)からはコオロギの



声が、上(木)からはセミの音が、という時期も長かったように感じます。それにキンモクセイも10月10日ごろにようやく満開に。私の感覚では、いつもなら9月下旬くらいには街で良い香りが漂っていたような気がしますが、いかがでしょうか。みなさんも身の回りで気がついた「遅い秋」はありませんでしたか。

これも地球温暖化の影響が一因にあるのかもしれませんが。温暖化対策は待ったなしです。温暖化を食い止めるために、1人1人がわずかでもできることをやらなくてはなりませんね。

これも地球温暖化の影響が一因にあるのかもしれませんが。温暖化対策は待ったなしです。温暖化を食い止めるために、1人1人がわずかでもできることをやらなくてはなりませんね。



★秋の新茶★横浜市の三溪園で毎年10月に催されるお茶会があり、縁あってここ数年ほぼ毎年お邪魔しています。今年は抹茶席のほかに1つ煎茶席があり、ここで「アキヅミジュンチャ」のお茶をいただきました。これは「秋摘み旬茶」のことで、なんと秋の初めに出た新芽を摘んだお茶なのだそうです。秋摘み茶、秋摘み新茶とも言います。

新茶と言えば普通5月の八十八夜の頃に摘まれるもの。この八十八夜の頃の気候に似ている秋の初めに、その年最後に芽吹いた新芽を摘み取ってお茶にしたものが、秋の新茶なのです。私も初めて知り、初めていただきました。春の新茶ほどの香りはありませんが、色が濃いのにさわやかな感じでした。



竹林に囲まれる三溪園の蓮華院

お茶屋さんやインターネットでも期間限定で販売され、人気があるようです。まさにつかの間の旬を楽しむお茶ですね。そんな細やかな季節感に育まれるお茶が、ますます好きになりました。

### ★我が家のお客様★



ベランダの隅に落ちていたコウモリの子ども。残念ながら死んでいました。何年か前にも落ちてきたことがありますが、その時は翌朝なくなっていました。我が家のアパートの屋根裏にアブラコウモリが棲んでいるので、その子どもでは。巣の入り口がわからなくなったのでしょうか。ティースプーンの上に乗る大きさで、大きな耳、顔の左側を見せて写っています。目鼻口、わかりますか？かわいい顔しています(8月30日)。



ある朝、台所の流しのそばにいたカネタタキの雌(写真の1目盛りは5ミリ)。私はカネタタキを見たいな〜と前から思っていたのですが、まさか家の中で見られるとは！でも住宅の垣根によくいるようなので、珍しいことではないのかもしれませんが。

鐘を叩くような声で鳴くからカネタタキなのですが、チッチツという感じ(雌は鳴きません)。雌は写真のように羽がないのが特徴です。コロコロと鳴く、コオロギの仲間です。(10月10日)。



#### お・ま・け

きれいでしょ？タマムシ(玉虫)です。産卵場所を探していました。座間市の座間谷山公園にて(9月15日)。



自己紹介★私は、横浜市の里山を生かした公園のスタッフとして自然の保護・保全やイベントの運営に携わる一方、「あおぞら自然共育舎」として、フリーランスで自然体験・再生・創出のための仕事をしています。「気づき」を大切にするのが信条。この通信で自然のことや私がやっていること、日常で自然とのふれあいを楽しむヒントのようなことも、お伝えできたらなあと思っています★この通信は私が会った方や知っている方にお渡ししていますが、ご家族やお友達との回し読み歓迎です☆ネイチャーゲームインストラクター・ビオトープ管理士・有)カルティバートカンパニー 人と自然の研究所客員研究員☆横浜市戸塚区在住、1963年6月生まれ。



\*仕事の相談、感想はこちらまでお気軽に！→[hiromi-h@river.dti.ne.jp](mailto:hiromi-h@river.dti.ne.jp) 早川広美(あおぞら自然共育舎)